

こどもあーと熊本大分震災支援室

☆—☆—☆—☆—☆

5月14日の地震では、こどもあーと事務所も大きく揺れたが損傷なし。

5月16日は夜中の地震だったため、事務局も自宅近くの学校の校庭へ避難。翌朝、事務所を見ると室内は棚が倒れ書類が散在、瓦がおち、壁にひび。その後も大きな余震が続きやっと事務所に来たのが18日。事務所機能を復旧させ、震災支援室を設立。

☆—☆—☆—☆—☆

それまで各地から安否確認やお見舞いの連絡あるも対応ができず、震災支援室設立のお知らせにてお返事に替えさせていただきました。

お知らせを見て、早速支援金を送っていただいたり、控えていたがやっと連絡できるとお声をいただきました。本当にありがとうございました。

☆—☆—☆—☆—☆

5月16日震災支援室・代表理事会

熊本、大分の現状を踏まえ、至急支援する事、今後支援する事、現地の要求にあった適切な支援を行う事を決め、方針を文章化(別紙)理事の了承を得すぐ実行に移しました。

☆—☆—☆—☆—☆

5月26日震災支援室・理事会

□熊本状況：事務所棚が倒れパソコンが落ちたが翌日には復旧、連休明け片付けた。

会員は震災直後に他県へ移住した人、避難所にいるなどさまざま、子どものストレスが高まっていたため、動ける大人を登録し避難所で10ヶ所のあそびの会を実施。

子どもたちの今の宝物を問うと、水、缶詰、くまもん、おもいで。

近所のつながりの大切さを実感。日常に戻ること 楽しさ 子どもを巻き込んで。

現地には、いろんな団体が心の調査に入っている。

水源地域は、被害が大きかったが避難地認定されていないため人材・物資がなかったので、自治会で力を合わせ、居住場所の建設や炊き出しをした。きくちふるさと水源交流館はトヨタのボランティアが入って片づけが進んだ。体育館は崩れがひどく立ち入り禁止だった。

□大分状況：別府の例会中止。地震の当日が例会、会場が避難地になりホケキョさんは到着したが、そのまま荷物を持って移動となった。代替例会の検討中。みなが避難などでバラバラになっていたがデイキャンプを実施、明るくなった。

大分のコンパルホールも避難場所になり、利用時間のみ貸してもらった。

☆—☆—☆—☆—☆

支援室報告：5月31日までに1,384,472円の支援金が寄せられました。

至急の支援として、被災事務所5ヶ所に10万円を送金。被災地域への行動費として被災県の理事2名と事務局長、次長2名に5万円。震災被害例会に45,000円を支出。

これからの支援として、熊本県子ども劇場連絡会は、被災地の支援公演として地域でのフェスティバル(8/20-21)を考えています。支援室でも子どもたちをはじめ被災地域の心のケアのための遊びや舞台公演、支援活動を行う団体の支援を行っていきます。

今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

☆—☆—☆—☆—☆